

ミステリ読書案内

2022. 9. 11 発行元

第395号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

岡崎琢磨「珈琲店タレーランの事件簿8」

8月に宝島社文庫から岡崎琢磨の『珈琲店タレーランの事件簿』シリーズの8巻目が出た。ゆっくりゆっくり進んでいく物語。併せて、岡崎琢磨のこのシリーズ以外の作品についても簡単に取り上げてみたい。

京都コーヒーフェスティバル

語り手はいつもの通り「僕」（青野大和・アオヤマ）。今回はイベント運営会社の中田朝子という人物が持ち込んできた「京都コーヒーフェスティバル」に参加することになる。出店の声を掛けてもらうきっかけは以前KBC大会でトラブルの元凶になった石井春夫の紹介によるということだ。

またまため事が起きる可能性が考えられたが、純喫茶タレーランのバリスタ・切間美星は参加の判断をした。コーヒー店は6店。来場者の投票によるチャンピオン選定もあるという。最初のページに岡崎公園の会場図も明示されていて、本格推理らしい仕掛けもある。

シリーズ開始10周年ということで、時間をかけて物語が成長していることを感じる。

最初の事件はペーパーフィルターの切れ目

大会開始直後の忙しさの中で最初の事件が持ち上がる。タレーランの通路を挟んで向かい側の太陽珈琲でペーパーフィルターに切れ目が入れていることが判明。切れ

目はフィルターの束全部に及んでおり、誰かが嫌がらせを行ったことが明らかになっていく。

犯行は方法、時間と機会の関係から6店のスタッフに限られるだろうと推測され、疑心暗鬼が広がる。この時点での犯人特定は出来なかった。そして大会二日目に…。(実はこの日の夜に重要な展開の場面があったのだが…)

二日目の最初の時点で嫌がらせを仕掛けられたのはタレーラン。どうやらペットのしつけ用スプレーを吹き付けられ、リンゴ抽出苦味成分が混入したらしい。美星の頭脳は回転を始め、一度は苦しい流れに入り込んでいってしまう。そして第三の事件が起きて…。美星の推理の行く先は…。タレーランらしいホッとする結末に到着。

岡崎琢磨の他の作品も

右側に『珈琲店タレーラン』シリーズ以外の岡崎琢磨作品を並べてみた。10年間に約20冊。多くはないが毎年ペースを維持して新作を生み出してくれている。基本的には短編の積み上げによる構成。そして殺人事件などの警察が大々的に

《珈琲店タレーラン》シリーズ

1. 珈琲店タレーランの事件簿
また会えたなら、あなたの淹れた珈琲を
 2. 彼女はカフェオレの夢を見る
 3. 心を乱すブレンドは
 4. ブレイクは五種類のフレーバーで
 5. この鴛鴦茶がおいしくなりますように
 6. コーヒーカップいっぱいのお愛
 7. 悲しみの底に角砂糖を沈めて
 8. 願いを叶えるマキアート
- いずれも宝島社文庫から書き下ろしの形で出版されている。

岡崎琢磨の他の作品

1. 轡はうつろ、メリーゴーランドのように
2. 道然寺さんの双子探偵
3. 新米ベルガールの事件簿
4. 病弱探偵
5. さよなら僕らのスツールハウス
6. 春待ち雑貨店ぶらんたん
7. 夏を取り戻す
8. 九十九書店の地下には秘密のバーがある
9. 道然寺さんの双子探偵 揺れる少年
10. 下北沢インディーズ
11. 貴方のために綴る18の物語
12. Butterfly World 最後の六日間

登場するような話にはならない。身近で起きる小さな出来事。人々の気持ちの持ち様やすれ違いなどをテーマにしていることが多い。世間に衝撃を与える一大傑作ミステリは書かないだろうと思うが、温かい気持ちにしてくれる作品作りに邁進してくれるものと期待している。

『新米ベルガールの事件録』

2016年幻冬舎文庫。副題としては『チェックインは謎のにおい』となっている。雑誌『PONTOON』に連載された4つの話を集めた短編集。「お仕事ミステリ」の形。仕事をしながら出会う日常系の謎に迫るストーリー。

主人公は新人社員の落合千代子。名前から「おっちょこちょい」と呼ばれている。就職したところは千葉県東部の海岸にある崖っぷちのホテル。経営も崖っぷちであると言われ、最少人数の職員で運営されている。千代子は教育係の二宮の指導を受けながら、少しずつ仕事に慣れていく。第一話の『招かれざる客と髪の毛の幽霊』は、結婚式の二次会に現れた誰も知らない客の行方探しと千代子がトイレで発見した大量の切られた髪の毛の謎を扱っている。岡崎ミステリの基本である一見不思議に見える表面と、ゆっくり地道に積み上げていく謎解きが読みどころ。ユーモア含みで、岡崎作品の中ではよくまとまっている短編集と言える。